

車道を走る中速・中型無人自動配送ロボット

社会課題・地域課題・物流課題の解決に向けて

目指す将来像



深刻化するラストワンマイル配送における人手不足の解消や、移動や買い物に困っている住民の支援など、社会課題・地域課題・物流課題の解決に向け、地方自治体と協力して無人で走行する自動配送ロボットの実用化に向けた技術開発・サービスの実証を進めています。

ここが凄い!!

国内で初めて*1 無人自動配送ロボットによる車道での実証実験を実施

*1 自社調べ



- ・中速・中型ロボット(ミニカー規格*2)を活用
- ・一般車両の走行を障害せず、車道走行を実現
最高速度15km/hで走行
- ・周辺の幹線道路を活用することにより、
配送距離を延伸し、対象エリアの拡大が可能
- ・常に遠隔監視し、必要に応じて遠隔操縦可能
(東京遠隔監視ルーム)

無人自動配送ロボットに多様な機能やサービスを搭載



- ・ニーズや用途にあわせた機能の搭載が可能
(ロッカー、温冷蔵、決済機能など)
- ・電子マネーを活用した決済などに対応可能
- ・スマホアプリからロボットの現在地を確認
- ・積載量：90kg (ミニカー規格*2)

*2 長さ2.5m以下 x 幅1.3m以下 x 高さ2.0m以下 に準じたサイズ

プロジェクトの取り組み

中速中型自動配送ロボットを複数台利用した多様な地域内サービス提供

- ・移動販売サービス：セイコマーチン商品をセルフレジによる販売
- ・注文配送サービス：出前館プラットフォームを活用し、事前決済商品の配送サービス
- ・宅配便配送サービス：PUDOステーションを搭載し、ヤマト運輸と連携した配送サービス
- ・北海道石狩市の住宅地での6ヶ月、1,600km走行のサービス実証を実施

雪上走行技術の研究開発

- ・北海道大学との雪上走行・降雪環境でのAI技術による共同開発
- ・準公道（北海道大学構内）での積雪・降雪環境での自社開発した自動配送ロボットでの自律走行成功